

# ドライブ体験装置導入

## 近畿大工学部 衝突防止システム研究



無線操縦カー（手前）の送る映像を見ながら運転を体験できるシミュレーション装置

近畿大工学部（東広島市）知能機械工学科の自動車システム研究室は、車の運転を疑似体験できるシミュレーション装置を導入した。カメラを積んだ無線操縦カーが送る映像を見ながら操縦。学生や研究者が、衝突防止システムの研究などに役立つ。

装置はマツタ車を改造した運転席と、カメラ五台を搭載した無線操縦カーで構成。前方と左右、サイドミラータイプの計五画面を見ながら運転を体験す

ながら運転を体験する。研究室の依頼で理化学機器を製造販売する日新精器（広島市南区）が開発した。研究テーマとして、カメラや車体の柱の位置を変えた際の視界の変化、ドライバ―の脳波や発汗量の測定などを検討。無線操縦カーに障害物を避けるプログラムを取り入れ、事故を回避するシステムも研究する。

（境信重）

竹原伸教授（54）は「実車を使わずに済むためコストが抑えられ、手軽に繰り返し実験できる。研究を創意工夫する学生の力を養いたい」としている。竹原教授がトップを務める近畿大工学部自動車技術研究センターの実験にも活用する。